

これ よし

## 緒方惟準の生涯

没後100年  
記念展

2009 6 / 2 (火) ~ 6 / 14 (日)

午前10時~午後4時(月曜日休館)

今年度の特別展示では、緒方洪庵の次男で、洪庵死後、緒方家を継いだ惟準(幼名平三、通称洪哉、1843~1909)の生涯を取り上げます。

惟準は、少年時代に元適塾生の渡辺卯三郎および伊藤慎蔵に蘭学の手ほどきを受けたあと、長崎でオランダ医のポンペ、ボードイン、マンスフェルトから西洋医学を学びました。文久3年(1863)、幕府の奥医師であり、西洋医学所頭取を兼ねていた父洪庵が江戸で急死したため、緒方家を継ぐことになります。慶応3年(1867)からオランダのユトレヒトの軍医学校に留学し、同4年6月に帰国。その直後、朝廷から出仕を命ぜられ、明治天皇の侍医となります。その後、ボードインとともに、大阪府病院医学校(明治2年[1869])について大阪軍事病院(明治3年)を創設し、大阪の医学発展の基礎を築きました。明治5年、東京に転任したあと、大阪鎮台軍医長、軍医本部次長、軍医監兼薬剤監、軍医舎長(軍医学校長)、近衛軍医長を歴任し、軍医の養成や医務制度の確立に尽くしました。

ところが、兵士の脚気予防策として麦飯給与を主張したことで、同僚らと意見が衝突し、明治20年(1887)2月、病弱を理由に依願退官し、大阪に帰ることになります。同年4月、私立緒方病院を設立、翌21年には、貧窮者のために大阪慈恵病院を有志とともに開設し、民間にあって積極的な医療活動を行いました。

惟準は、医学雑誌の刊行にも力を尽くし、明治10年には大阪で最初の医学雑誌『刀圭雑誌』(医師結社である「医事会社」の会報)を発刊していましたが、緒方病



院開設後も『緒方病院医事研究会会報』(のち『医事会社報』と改称)を刊行しています。

明治28年(1895)、惟準は緒方病院院長を退き、弟収二郎にあとを任せます。同42年7月20日、胃がんのため死去します。享年67歳でした。

惟準は、高名な父洪庵の陰に隠れて一般にはなじみが薄い存在ですが、医師の養成や軍医制度の確立、医学雑誌の創刊、民間における医療活動など、明治期日本の医学を語るうえで欠かすことのできない人物です。とりわけ、大阪の医学振興に果たした功績は、特筆すべきものです。今年、惟準没後100年を迎えるにあたり、洪庵の医戒を实践したその足跡をたどってみたいと思います。



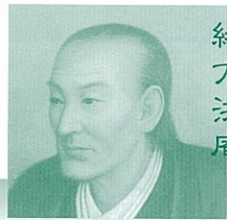
◎場所 適塾(史跡・重要文化財)  
(大阪市中央区北浜3丁目3番8号 電話06-6231-1970)

◎入場料 一般250円・学生130円・生徒 無料  
(130円) (70円) (無料) ( )内は20人以上の団体料金

◎交通 京阪電車・地下鉄は淀屋橋または北浜下車、市バスは淀屋橋下車

●主催/大阪大学・適塾記念会

日・祝日開館



緒方  
方庵

緒  
方  
惟  
準

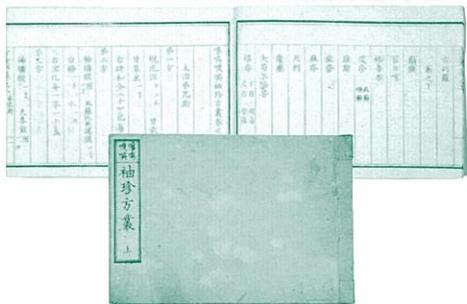


## 緒方惟準纂輯『軍医須知』初編 (中山沃氏 所蔵)

1冊。陸軍本病院官版。刊行年は不明ですが、惟準が陸軍一等軍医正であった明治6年(1873)ころの著述です。軍隊が行動している時に、軍医が兵士らの健康や病気についていかに留意すべきかを懇切に説明したものです。「行軍編」では、兵士の派遣地の風土、食料、有毒な動植物、風土病、流行病、梅毒について述べています。ついで、「内科」の項目では、行軍中に兵士が発する諸症状や、病気に対する応急の処置を簡略に記述しています。

## 緒方玄蕃充(惟準)輯『嗜鳴嘍啖 袖珍方叢』 (適塾記念会 所蔵)

「嗜鳴嘍啖」はボードインのことです。初編上下2冊と後篇上下合本1冊。明治2年(1869)刊。同年春、大阪府病院に教師として着任したオランダ陸軍軍医ボードインが治療に用いた薬剤の処方を、病院の総括者(病院長格)である緒方惟準がまとめ、出版したものです。内科をはじめ、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、外科、齒科など、全科にわたる処方を記しています。



## 西村松三筆記『緒方從六位講 布列斯消食器解剖篇』 (適塾記念会 所蔵)

大阪府病院医学校教師ボードインによるフレス(FlesJA、オランダ人)著『人体系統解剖学便覧』のうち「消食器(消化器)の解剖学」の部分の講義を緒方惟準が訳し、同医学校生徒西村松三(英蔵)が筆記した講義録です。西村松三(1848~1926)は播磨国山崎藩士倉橋氏の三男で、同藩医の養子となった人物です。



## ボードイン自筆生理学講義ノート (適塾記念会 所蔵)

ボードインが作成した生理学講義ノートです。見返しに、緒方惟準の筆で「我師和蘭国陸軍一等軍医ボウトイン氏ノ生理学講義本ノ一部ニして自筆ナリ、紀年ノ為保存ス、時一千八百五十八年ナリ 緒方惟準識」とあるように、惟準がボードインから譲り受けたものです。



## 緒方惟準訳『勃海母氏薬物学』 (中山沃氏 所蔵)

3冊。明治17年(1884)刊。ドイツのギーセン大学医学教授兼薬剤局長ブッフハイム(Rudolf.B.Buchheim)の著書『薬物学教科書』を翻訳したものです。薬剤として用いられる多数の無機・有機化学物質、生薬、毒物(例えばニコチン)の性状、薬理作用、適用疾患について詳述しています。当時、惟準は陸軍軍医監兼薬剤監であり、地位にふさわしい大著です。



勃海母氏薬物学 上巻  
力進書院出版

緒方惟準手記